

献辞

村田宗樹先生は、2008年8月10日に48歳の若さで帰らぬ人となられました。

村田先生は長年にわたる税理士としての実務経験を経て、2005年4月に本学法学部に税法および商法を担当する教授として就任されました。教授会歓迎会の席で、澁刺とした雰囲気での就任のご挨拶された先生のお姿は、いまだ記憶に新しいところです。専門分野の教育・研究はもとより、今後の法学部、そして大学全体の運営にも重要な役割を果たしていただけるものと考えていただけに、先生の早すぎるご逝去は本当に残念でなりません。

村田先生は、本学に着任後、税理士としての実務経験を生かし、大学院法学研究科においては税理士志望の大学院生の指導に熱心に取り組みられました。おかげで、先生が着任されて以来、税理士を目指す大学院受験者が増え、他大学からも本学の法学研究科に進学する者が増えてきました。多くの大学院生を抱え、熱心に修士論文指導を続けておられる姿が思い出されます。また研究面では、会社法の改正動向にも関心を持たれ、神戸学院大学法学会の研究会（2006年1月）において、「LLPを巡る問題について」というタイトルの研究報告を通じて新しい課題への研究意欲を示されました。

村田先生は、本学に着任された翌年の2006年4月には、主として財務分野担当の学長補佐に任命されました。本学の歴史や組織運営を理解するために、そして財務状況の分析と改善に向けて、身を粉にして取り組んでおられた姿は今も目に焼き付いています。

日頃からスイミングで体を鍛えておられた村田先生はスポーツマンでもありました。ゼミの学生諸君とサッカーやバレーボールを楽しんでおられる姿も思い出されます。

3年余りという短い期間ではありましたが、村田先生の本学でのご活躍は実に内容の濃いものでありました。残された我々にも多くの課題を提示していただきました。

村田先生の本学法学部へのご貢献に感謝し、そのご活躍を偲び、本追悼号をご霊前に捧げて、心よりご冥福をお祈りいたします。

2010年3月

法学部長 佐藤 雅美